

令和7年度第3回大和市スポーツ施設等の指定管理者選定委員会議事録

I. 開催日 令和7年10月10日（金）

II. 開催場所 大和市役所5階 第6会議室

III. 出席状況 委員5名

人見 清志委員（会長）、大紺 和由委員（職務代理）、北島 正巳委員、坂井 瞳春委員、福士 忠生委員

IV. 公開・非公開の状況

公開 非公開 一部公開

V. 傍聴 0人

VI. 審議又は検討の経過及び結果

A. 会議次第

1 議題

- | | |
|--------------------|-----|
| (1) 一次審査の結果について | 公開 |
| (2) 面接審査の実施について | 公開 |
| (3) 面接審査 | 公開 |
| (4) 指定管理者候補の選定について | 非公開 |

2 その他

B. 企画提案説明について

面接審査として、申込事業者「公益財団法人大和市スポーツ・よか・みどり財団」により「大和市スポーツ施設等」の指定管理者企画提案説明が行われた。

※企画提案説明の資料等は複数ページに渡るため掲載しておりませんが、市役所健幸・スポーツ部文化振興課にて閲覧できますので、事前に連絡のうえお越しください。

＜面接審査発言要旨＞

○は選定委員会委員の発言、●は応募事業者の発言を示します。

①面接審査における質疑応答

○（委員）昨今の地球温暖化に伴い、熱中症対策が課題となっているが、利用者への氷等の配布は、体育館と競技場でどの程度の量を確保することができるのか。また、その量は十分に足りているのか。

●正確に数量を確認していないが、競技場はかなりの大きいサイズの製氷機を用意しており、体育館は業務用の中型製氷機がある。競技場については、簡単になくなるような量ではないため、多くの方が施設を利用し、体育館で不足した場合には競技場側から補充することも可能である。これまでの管理の中で氷を切らしたことは一度もない。

○（委員）施設管理者としてどのように施設の効用を発揮し、市民にどのように還元できているか等あれば教えてほしい。

●施設の効用という点では、施設のスケジュール調整で、大和市、スポーツ団体、財団間の密接な連携により、公的利用と市民利用のバランスを保てている。また、スケジュール調整では複数団体で希望日程が重なる場合もあるが、財団が間に入り滞りなく調整ができるというのは、市内各スポーツ団体との日々のコミュニケーションのなかで信頼関係が構築されてきた結果である。

その他、市民への還元という点では、整備した競技場の天然芝を使って、トップスポーツ観戦デーの開催や、未就学児を対象としたキッズパラダイスなど、イベント等を通じて多くの方に利用していただいている。

○（委員）指定管理者制度の導入目的からすると、経済的・効率的な管理が観点としてあり、市としては少しでも経費が下がったほうがいいという側面もあるなかで、今回提示された収支予算書は指定管理者制度を導入してから今までの経験も踏まえ反映されたものなのか。

●第4期まで指定管理をしているなかで、施設状況については熟知しているが、老朽化が進んでいる施設も相当数ある。可能な限り維持できるよう努めているが、そのためにも修繕費が必要であり、積み上げていくと収支予算書の数字になる。

○（委員）今後予算を縮減していく余地はあるか。

●現在、電気については東京電力と契約しているが、各施設のLED照明化が整備されていく予定もあるため、今後は民間事業者を入れるなどして縮減を図ることを検討している。

○（委員）資料にもあるとおり、縮減によって利益がでた場合には利用者に還元していくという考え方でよいか。

●そのとおりである。

○（委員）施設の長期修繕計画は作成しているか。

●建物健康診断を行っており、その情報を市の公共建築課に提出している。また、修繕にあたっては責任範囲があり、130万円未満は指定管理者、130万以上は市側で対応することとなっており、財団側が行うものについては、優先順位をつけて順次修繕を行っている。

○（委員）責任範囲が市にあるものは、市に対してどういった情報を提供しているのか。

●建物健康診断であがってきたもののうち、優先順位が高いものについては財団側で事業者から見積書を徴収したうえで市へ情報提供している。

○（委員）長年の管理の中で苦情を受けること多くあると思うが、対策はあるか。また、災害時に施設利用者がいた場合に、対応マニュアルはあるか。

●苦情の内容によってはその場ですぐに対応することが難しいものもあるが、苦情の内容は記録したうえ、上長に報告している。大きいものについては、苦情処理の専用様式に落とし込んだうえで本部にも報告をしており、いずれも改善策については内部で話し合いながら対応している。災害時の対策については、火災や地震等、それぞれに対応したマニュアルを事務所内に設置しているが、新しいものだとミサイルが飛来した場合を想定したマニュアルも整備し、何か起きた際には速やかに対応できるように準備している。

○（委員）防災に関することは、研修を実施するなど、共通見解を得ることができる機会は設けられているか。

●年に1回防災訓練を実施しているほか、放水訓練、AED操作の研修、実際に脱出シミューターを使用する等の機会を設けている。

○（委員）自主事業で多くの教室を実施されていると思うが、その中で市の人口の約4分の1を占める65歳以上の方に対しての教室が少ないように感じたが、今後増やしていく予定はあるか。また、その教室はスポーツセンターでないと実施ができないのか伺いたい。

●高齢者の方向けの教室は、現在「健康はつらつ教室」、ストレッチがメインで強度が低い「からだいきいき体操教室」がある。その他、例えばテニスだと強度が強すぎると感じる方でも、アメリカで流行っているスポーツで、バトミントンコートサイズの中でプラスチックボールをラケットで打ちあう「ピックルボール」を今年度から実施しており、年齢層をみても60代後半～70代の方も参加されており大変人気となっている。その後、サークルも作られ、サークル活動も含め、財団がサポートをしている。実施場所については、今後、スポーツセンターだけではなく、財団が管理している他施設にお

いても教室を開催できるようにしていきたいと考えている。

○（委員）セルフモニタリングとはどういったことをしているのか。

●スポーツ事業課内で市から提示いただいた内容に沿って点数をつけていくモニタリングと、財団内部の品質管理担当が独自に施設を回って行うモニタリングがあり、財団の品質管理担当が行うものについては、サービスがしっかりと成り立っているか、事業内容が適正かどうか等を確認している。

○（委員）企画提案書P13にある、意見要望を一元的に収集・管理し、データベース化していると記載があるが、どういうことか。

●各施設から苦情やトラブルがあった際に報告書があがってくる仕組みとなっているが、その後の対応方法も含め全職員が閲覧できる情報BOXにおいて共有しているということである。

○（委員）データベース化して共有した時点では、閲覧する職員にとってタイムラグがあると感じるのではないか。要望としてだが、意見や要望等を受けた段階で内容について共有したほうがよいと感じた。

○（委員）企画提案書P43「職員の教育・研修」の専門研修については、個人から要望があった場合に実施されるものなのか。

●担当職務のうち、施設を管理する者と事業を実施する者については、それぞれの職務に関する資格を得る研修を受講するよう指名している。

C.審査会内容（非公開）

D.選定結果

面接審査及び審議の結果、選定委員会として、「公益財団法人大和市スポーツ・よか・みどり財団」を候補者として選定した。

E.審査結果の公表について

審査会の結果については、HPで公開する。

（※資料等は複数ページにわたるため掲載しておりませんが、市役所文化振興課で閲覧できますので、事前に連絡のうえお越しください。）